

研究主題：対話的コミュニケーションによる学び合う関係を成立させる授業について (大淀町立大淀希望ヶ丘小学校)

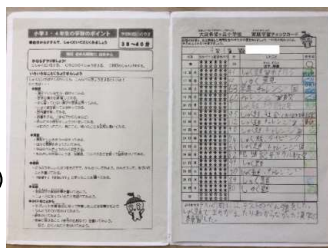
1. 研究の概要

【研究の趣旨】

- ・放課後の学習時間（家庭学習）の充実と対話的コミュニケーション能力を高める学習形態の工夫について

(1) 放課後の学習時間（家庭学習）の充実

- ・「大淀希望ヶ丘小学校 家庭学習の手引き」の作成
- ・家庭学習チェックカードの作成（写真①）
- ・家庭学習時間の記録（家庭での学習状況の把握のため）
- ・AIドリルの活用（3学期から）



写真①

(2) 学習内容に応じた学習形態の工夫

算数科を中心とし、適切な対話的コミュニケーションの場を検討

- ・チームティーチング（以降、TTという。）（写真②）
（例：大きな数や小数のたし算、ひき算など）
- ・少人数指導（写真③④）
（例：重さや面積、角など）
- ・TT→少人数指導へ
（例：小数のかけ算とわり算や長さなど）



写真②TTの学習の様子

(3) アンケートの作成と実施

- ・全国学力・学習状況調査の児童質問紙を参考にして学校で独自にアンケートを作成した。（各学期に1回実施）
- ・少人数指導に関するアンケートの実施



写真③④少人数の学習の様子

2. 研究のまとめ

上段は6月、下段は12月実施	1年	2年	3年	4年	5年	6年
ペアやグループでの話し合いで、自分の考えを話すことができた。		58.7%	87.9%	73.6%	95.0%	89.8%
		78.8%	90.6%	84.8%	85.3%	94.8%
学習課題に積極的に取り組んだ。	86.3%	76.5%	93.9%	70.6%	92.6%	87.2%
	100%	81.8%	81.3%	75.7%	77.9%	86.9%
学校の授業時間以外に普段（休日）全く勉強しない。				14.3%	42.9%	32.5%
				32.3%	23.8%	22.0%

【アンケートの結果と考察】

家庭学習の時間は全体的に増加傾向にあるとまではいえないが5、6年では自主学習に取り組んでいることもあり、手引きを活用するなどその成果が表れてきていると考えられる。学習形態については課題によって形態を変えたことで児童に対話的コミュニケーションの場が適切に設けられ、コミュニケーション能力の向上につながったのではないかと、また、教員が児童の学習状況や習熟度をはっきり把握できたことで、個別に適切な指導や声掛けなどができ、非認知能力が高まったのではないかと考える。今後は一人一台端末を活用し、学習形態の工夫だけではなく、個別の理解度にあった学習スタイルを構築することで主体性を育み、深い学びへとつなげたい。

3. 研究へのコメント

対話的コミュニケーションによる学び合う関係を成立させるための方策として、「家庭学習の手引き」等を活用した取組、TT・少人数指導を組み合わせた学習形態の工夫等を行うとともに、詳細なアンケートによる「学習への取組」「非認知能力」を評価対象とした分析がなされた研究報告である。

アンケートの分析結果にある「学習形態の工夫」について、「意見を言い合う」「考えを深める」「自分の考えを話す」等の項目における少人数指導及びTTとの関連をより深く分析することで、効果的な学習形態や学習効果の開発につながることが期待される。